

準備

5000万ユーザの獲得までにかかった時間として、次のようなデータがあった。

飛行機68年・自動車62年・電話46年・クレジットカード28年・テレビ22年・携帯電話12年・インターネット7年・Pod 4年・YouTube 4年・Facebook 3年・Twitter 2年・ポケモンの19日。このデータでわかるように最近誕生したもののほど短期間になっている。その要因として世界の変化がある。一つのイノベーション（技術革新）が次のイノベーションを支えるように、変化を加速させるのである。このようなイノベーションのような変化は技術的なことに限らず、身の回りでも起こっている。例えば、昭和から平成においてある種「理想的」と言われてきた結婚や出産、マイホームやマイカーの購入も今では変わってきている。結婚や出産を選択しないことや、シェアハウス・カーシェアリングといったサービスが誕生している。これは多様な生き方を選ぶ時代に变化してきたことを意味するように思う。そして、このような変化は人生の期間を3つに分けた「教育」「仕事」「老後」にも今後さらなる影響を与えることだろう。「教育」では多様な学び方を選択でき、「仕事」では一つにとらわれず副業や転職を行い、寿命が伸びたことで「老後」でも立場を

変えながら長く社会に関わっていく。これほどの変化に備えてとにかく準備をしなければならないのである。

元号が令和に変わり、昭和や平成を過去として見る機会が多くなってきた。こういう新しい時代の節目にこそ、新しい人生観が求められるのではないか。令和の時代の幕開けは決して明るくはなかった。新型コロナウイルスの蔓延によって社会への打撃が大きく、多くの人の生活に打撃を与え続けている。しかし、このコロナ禍で強制的ではあるものの、新しい日常や新しい働き方について試行錯誤を重ねてきたことは事実である。ある著書で、これからの多様な時代に必要な蓄積はスキル・人的ネットワーク・自己理解とあった。この経験は、前向きにとらえれば新しいことへ取り掛かるきつかけになったのかもしれない。リモート会議のために不慣れなスマートフォンやインターネットに触れてみたり、オンラインで関わりのない人とながったことがあった。自宅待機で考える時間が増えたり、困難な状況に向き合う過程で自己理解が深まったのではないだろうか。例えばその経験が成功であっても失敗であっても、このような経験が血や肉となり、新しい一歩への足場になると思う。

どのような人生になるかわからないが、誰にも描けないオンラインワンの人生を創る時代に入れたことを頭の隅に置きつつ、明日からの出来事や出会いを前向きに過ごしたい。

主張 北辰

東京オリンピック、ならびに東京パラリンピックが始まり、そして終わった。本来であれば、そこに「大成功に」とか「盛況のうちに」といった形容詞を付け足したいところであるが、淡々と「時が経過した」としか言いようがない。こういった形容詞が付け足されるかは、時の経過とともに明らかになっていくだろう。ただ、今のところは個人的には肯定的な言葉遣いができると思えない。

今から一年前の時点では、次の年になれば状況は今より良くなると信じて止まなかった。いや、信じていたかった。ところが、現状は皆さんもご存知の通りである。緊急事態宣言の延長が繰り返され、新潟県でも特別警報が出され、去年は行うことができた秋季地区大会が延期された部活動も存在する。ワクチン接種が進んでいると言われているが、新種株が次々と発見され、このままではウイルスと医療の闘いが続くのではないかと不安に思う。

探究心というものは、「見えていない」ものに対して抱くものである。しかし、今回の「見えていない」ものには探究心を抱くどころか恐怖心を抱くのは私だけなのだろうか。それでもウイルスと対峙している医療現場の方々、そしてウイルスの研究を行っている方々に改めて感謝と敬意を表したい。

また、こうした不安な状況が続くことによって、どことなく鬱屈した雰囲気が続いている。明確で詳細な対応策を示せないまま、それ故に強制もできない状況が続く、お願いをする側とされる側がお互いに嫌な気持ちで人と接する場面が多いように

感じる。上の立場の人間が責任を曖昧にして、結局は下の立場の人間にその分しわ寄せがいく構図は、新型コロナウイルス感染症が拡大する以前から変わっていないのである。話をオリンピックとパラリンピックに移そう。オリンピックでは、メジャーなスポーツだけでなく、マイナーなスポーツにも焦点があてられる。外国にはメダルを獲得するため、特定のスポーツに絞って強化を進めることも存在するが、日本はなるべく幅を広げるようにしている。選択肢を広げるという意味では、こうした考え方には賛成する。ただ、マイナースポーツに関しては費用面での支援が少ないということが毎回頭題にされる。そして、それを支える人々の存在がクローズアップされる。

パラリンピックに関しても同様である。見世物とする批判も存在するが、人間の可能性を広げるという意味では、パラリンピックは必要だと考えている。特に日本人最年少メダリストとなった山田美幸さんの泳ぎには衝撃を受けた。手足のある人であっても満足に泳ぐことができない人もいるにも関わらず、手足がなくても人間はあれだけ泳ぐことができるのである。こうした姿を見るたびに、人間の限界を勝手に線引きしている自分に気付くのである。ただ、パラスポーツに関しても支援が少ないことが度々話題にされることがある。

いずれにしても競技を続けるためには支援が必要である。しかし昨今の状況を見れば、支援に向かう状況、というより精神的余裕がないように感じられる。そうした状況下でオリンピック・パラリンピックが行われたという観点では少し寂しい思いを感じた大会となってしまった。近いうちに人類がウイルスという壁を乗り越え、皆が様々な活動に理解を示しながら支えていく雰囲気が広がる社会に早くなることを切に願う。

編集・発行 関根学園高等学校

RESTART



関根の教育

第123号 2021年10月23日発行



硬式野球部 北信越大会出場!!

夏季大会も各試合で堂々たるプレー!!

4月13日（火）から第144回北信越地区高等学校野球新潟大会が行われました。本校硬式野球部が準優勝をおさめ、見事北信越大会出場を決めました。新型コロナウイルス感染症の影響により練習が制限されるなか、選手一人一人ができる最大限のことを考え、実行してきたからこそ結果だと思います。

6月5日（土）からは長岡市悠久山球場にて北信越大会が行われ、1回戦で松商学園高校（長野県1位）と対戦しました。「やれることをやろう」という監督やコーチの指示のもと試合が始まりましたが、なかなか流れを持っていくことができずに残念ながら敗れてしまいました。

また、7月10日（土）から第103回全国高等学校野球選手権新潟大会が行われました。準々決勝で日本文理高校に敗れはしましたが、選手たちは延長戦までもつれる熱戦を繰り広げてくれました。

両大会とも試合が終わった後、選手は非常に悔しそうな様子でした。3年生は夏季大会をもって引退となりますが、野球を通じて培ったことを今後の生活に活かしてくれると思います。また新チームが、きっとこれらの敗戦をエネルギーに変え、今後さらなる飛躍を遂げるものと期待しています。

春季および夏季大会の軌跡			◇ 北信越大会		
◇ 春季大会			1回戦	関根学園	2-6 松商学園
2回戦	関根学園	4-1 帝京長岡	◇ 夏季大会		
3回戦	関根学園	7-1 高田			
4回戦	関根学園	6-5 日本文理	2回戦	関根学園	11-3 見附
5回戦	関根学園	12-11 北越	3回戦	関根学園	10-0 羽茂
準決勝	関根学園	4-2 新潟明訓	4回戦	関根学園	7-1 巻
決勝	関根学園	2-3 産大附属	準々決勝	関根学園	2-5 日本文理



体操部と空手道部が

インターハイ出場!!

5月下旬から行われた県総体でも各運動部が活躍しました。

5月29日（土）～30日（日）に行われた空手道では、女子個人形で増崎雛さん（3年）が優勝、女子個人組手で柳井美空さん（1年）が準優勝、それぞれインターハイ出場を決めました。

5月29日（土）に行われた体操競技では、団体総合で男女アベック優勝を飾りました。個人総合でも、男子は佐藤寛太さん（3年）、女子は岡田真祐美さん（2年）が優勝しました。個人種目別を含めて、体操部は男子6名、女子6名がインターハイ出場を決めました。

体操部		空手道部	
男子団体総合	予選敗退	インターハイ	
女子団体総合	決勝進出	女子個人組手	
男子個人総合		柳井 美空（1年）	
佐藤 寛太（3年）	決勝進出	1回戦敗退	
女子個人総合		女子個人形	
岡田真祐美（2年）	決勝進出	増崎 雛（3年）	
細川 琴未（3年）	決勝進出	第一ラウンド5位	
小嶋 陽菜（2年）	決勝進出		
伊藤 美海（3年）	決勝進出		
新体操			
青木もも花（3年）	予選敗退		

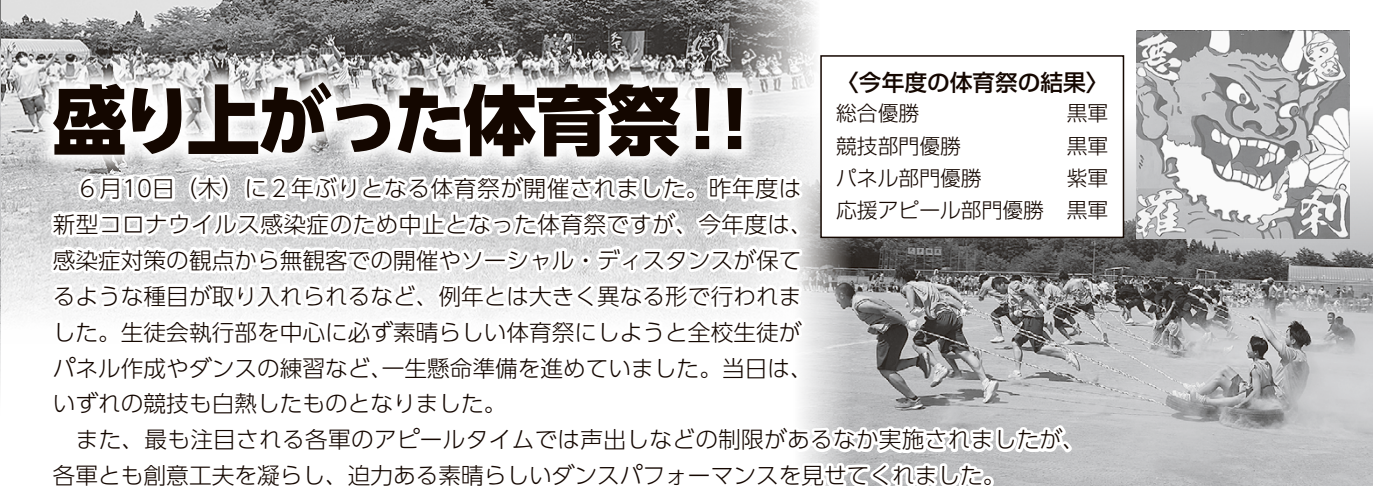
サマーコンサート開催!!



8月11日（水）に本校第2体育館（かがやき）にて吹奏楽部によるサマーコンサートが開催されました。吹奏楽部はこのコンサートに向けて、各パートに分かれて、平日の放課後はもちろん、休日も学校で一生懸命練習していました。本番前にリハーサルを行い、コンサートの流れ等を最終確認していました。

本番では、途中このコンサートをもって引退する3年生にサプライズが用意されたり、アンコールで3年生をメインに再演奏が行われたりしつつ上記の全10曲が演奏されました。とても楽しい演奏会でした。またどの演奏も観客を惹きつけるものであり、一曲一曲が終わるごとに会場は一体感で包まれていました。次回も素晴らしいコンサートを楽しみにしています。

【第1部】クラシック・ステージ	【第2部】アンサンブル・ステージ	【第3部】ポップス
♪音楽祭のプレリュード	♪沢地萃	♪ J-BEST '20
♪ヨークシャー・パレード	♪ Flower Crown	♪ 廻廻奇譚
♪小組曲	♪ 三日月のシャンソン	♪ ハナミズキ



盛り上がった体育祭!!

6月10日（木）に2年ぶりとなる体育祭が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染症のため中止となった体育祭ですが、今年度は、感染症対策の観点から無観客での開催やソーシャル・ディスタンスが保てるような種目を取り入れられるなど、例年とは大きく異なる形で行われました。生徒会執行部を中心に必ず素晴らしい体育祭にしようと全校生徒がパネル作成やダンスの練習など、一生懸命準備を進めていました。当日は、いずれの競技も白熱したものとなりました。

また、最も注目される各軍のアピールタイムでは声出しなどの制限があるなか実施されましたが、各軍とも創意工夫を凝らし、迫力ある素晴らしいダンスパフォーマンスを見せてくれました。

〈今年度の体育祭の結果〉	
総合優勝	黒軍
競技部門優勝	黒軍
パネル部門優勝	紫軍
応援アピール部門優勝	黒軍

高校生英語スピーチコンテスト

7月18日（日）に行われた「新潟県高校生スピーチコンテスト」に本校の武田紗枝さん（2年 特進コース）が参加しました。武田さんは自粛期間中に見たいいくつかのニュースから医療従事者が差別を受けていることに衝撃を受けました。そこで「私ができる国際貢献withコロナ」というテーマのもと、その差別を少しでもなくすために高校生という立場で自分ができることを訴えました。

連日のように担当教員やALTからの指導を受けながら、練習を重ね、客観的データを原稿に盛り込んだり、ジェスチャーや表情を効果的に使ったりしながら分かりやすく聴衆に伝えることができていました。

本番当日は心に響く堂々としたスピーチでした。

上教大院生による「お互いの心に触れるエクササイズ」

昨年度に引き続き今年度も9～11月の約2か月の間、上越教育大学教職大学院の大学院生の学校実習が本校で行われています。その一環として、大学院生らによる「お互いの心に触れるエクササイズ」講座が水曜関根講座（水曜7限）の特別講座として開講されています。

この講座では、良好な人間関係を形成するために、心理学の観点からお互いのこころや気持ちについて触れるエクササイズを行っています。全7コマ予定されており、自分のバイブルにしている言葉を受講者全員と共有したり、自分の短所を見つめ、それを長所に変えてみるというリフレーミングを行ったりしています。その他の活動、自己理解・他者理解を深めています。

1・2学年特進コースの新しい活動～LOCUS～

今年度、株式会社マイナビの協力のもと、地域企業を通し、地域を知り、学習する総合オンライン学習「LOCUS」に、1・2学年の特進コースが年間を通じて取り組んでいます。これは、身近だけど知らなかった地域企業との出会いをきっかけに、イノベーション思考を養い、地域の未来を創るチェンジ・メーカーを育成することを目的としたプログラムです。

本校では1・2学年特進コースが合同で6月から事前学習をスタートさせました。事前学習ではサプライチェーンや問いの立て方など、これまで深く考えたことのなかったトピックについて生徒一人一人が悩みつつもグループで話し合いながら学んでいます。

生徒は10月13日（水）に地域の企業を訪れ、最終的には各班で情報をまとめ、プレゼンテーションを行う予定です。このフィールドワークが地域や企業とのつながりと、企業が取り組む社会課題を知り、地域との関わり方を「自分ごと化」するきっかけになればと期待しています。

今年度よりインターネット出願を導入いたします。

令和4年度
生徒募集

推薦・スポーツ専願
専願1次・併願入試

試験日 令和4年 1月18日(火)
合格発表 令和4年 1月20日(木)

※詳しくは本校募集要項・ホームページをご覧ください。